

展示委員会

委員長 小柳 諭 副委員長 遠藤 裕 副委員長 浅野 博史

1. 役割と基本方針

- 1) 展示委員会は、JIRAの中核事業である展示事業における計画を立案し、事務局と協力し円滑な展示会運営を推進する
- 2) 画像医療システム産業の外部環境変化に対応し、業界の発展に資する魅力ある展示会の企画を立案する
- 3) 学会がリアルとWEBのハイブリッド開催の流れの中、学会併設展示会としての在り方を、どのような方向に導くのか見極める重要な時期であり、過去の踏襲に捕らわれず、学会の動向を踏まえて新たな概念をもった展示会の運営が必要と捉える

2. 2021年度の主な活動項目とその成果

- 1) 2021国際医用画像総合展開催（ITEM2021）：REALとWEBのハイブリッド形式で開催
 - a) ITEM2021-REAL 4月16日～18日（出展社132社、3日間の合計入場者数 6,209名）
 - ・参加者の安全確保の徹底を目的に、新型コロナ感染対策として、事前登録、ソーシャルディスタンスを反映したレイアウト設計、会場内人数のリアルタイム把握等を実施
 - ・REAL新企画で、ブース来場者（JRC登録とITEM登録の両対象）情報提供サービスを実施
 - b) ITEM2021-WEB新企画 5月12日～6月3日
 - ・WEB展示の他に特定テーマプレゼンテーション、学会WEBセッションページから展示製品誘導する学会プログラム技術製品リンク企画を実施
 - c) 出展社へのアンケート結果から、ITEM2022へ改善反映をかける
- 2) 第61回日本核医学会学術総会並びに第41回日本核医学技術学会総会学術大会併設展示会を開催
 - a) 学会は会場とWEBのハイブリッド開催、展示会は名古屋会場展示のみを実施（11月4日～6日）
出展社 28社（23社：対前年5社増） 学会登録者2,300名（内 現地参加者1,000名）
 - b) 展示会場にサーモグラフィ、消毒液を設置し、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底させた
- 3) 2022国際医用画像総合展（ITEM2022）の準備
 - a) パシフィコ横浜展示、WEB展示のハイブリッド開催準備を開始
 - ・REALとWEBの連携強化を目的としたITEM統合WEBサイトに情報を一元化し、参加者の集客、利便性向上を目指した企画とする
 - ・参加者の安全確保の徹底を目的に、ITEM2021と同レベルの新型コロナ感染対策を実施する
 - ・出展社の追加負担を軽減する形で集客企画を計画
 - ステージプレゼンテーション（特定テーマ、企業プロモーション）を実施、VOD配信する

- ▶REAL開催前にブース紹介録画を行い、VOD配信をする
 - ・ITEM2021で開始した学会プログラム技術製品リンク、ブース来場者情報提供サービスを実施
 - ・日本放射線技術学会（JSRT）のITEMブース取材協力
 - ▶JSRT学会サイトで大会期間録画配信予定。学会と出展社間やりとりをサポート
- 4) 第62回日本核医学学会学術総会/第42回日本核医学技術学会総会学術大会併設展示会並びに第13回世界核医学会（京都国際会館：2022年9月7～11日）の準備
- a) 例年より約2か月早い開催のため、2021年度内に下記対応を実施（5月31日募集締切）
 - ・過去の核医学会/ITEM出展社へ募集案内を送付
 - ・学会ホームページ・JIRAホームページに募集案内を掲載

3. 2022年度活動計画概要

- 1) 下記、学会展示会の計画について、JIRA事務局と協力し円滑な展示会運営を推進する
 - a) JRC2022
 - ・第81回日本医学放射線学会総会、第78回日本放射線技術学会総会学術大会、第123回日本医学物理学会学術大会
 - ・パシフィコ横浜（4月15日～17日）、統合WEBサイト（3月15日～5月18日）
 - b) 第62回日本核医学学会学術総会/第42回日本核医学技術学会総会学術大会併設展示会並びに第13回世界核医学会
 - ・京都国際会議場（9月7～11日）
- 2) 下記、学会展示会の計画について、JIRA事務局と協力し準備を進める
 - a) JRC2023（第82回日本医学放射線学会総会、第79回日本放射線技術学会総会学術大会、第125回日本医学物理学会学術大会）の準備
 - 会場：パシフィコ横浜（2023年4月14日～16日）、WEB（未定）